

平成21年度 組織目標

所属名：琵琶湖環境科学研究センター

実施日：平成21年4月1日

使命（誰にどのような貢献をするか）

「持続可能な滋賀社会の構築」、「琵琶湖と流域の水質・生態系の保全・再生」、「環境リスク低減のための実態把握」を基本テーマとした政策課題への対応を組織の使命とする。

このため、琵琶湖と滋賀の環境の継続的なモニタリングと総合解析、環境情報や知見の集約により、新たな課題発見や政策提案、施策効果の科学的検証を行うとともに、成果の情報発信に努める。

メッセージ：琵琶湖環境科学研究センターは、琵琶湖で起きるさまざまな現象の解明や環境施策の効果の科学的検証を行い、持続可能な社会の構築に向け、琵琶湖と滋賀県の環境を健全な形で未来につなぐ取組に貢献します。

課・室・グループの目標

組織目標	前年度の実績値、またはこれまでの推移等 (C)	平成21年度 目標値 (P)	目標値の考え方 改善点など (A)	目標達成に向けての 実施方策・スケジュール (D)
1 分析評価モニタリングの推進 (1)水士環境 (2)生物環境 (3)大気環境 (4)化学環境	水質測定計画等に基づく以下のモニタリングの実施 発生源の監視調査 琵琶湖等の環境基準監視調査 琵琶湖の残留有機汚染物質調査、地下水監視調査	水質測定計画等に基づき、以下のモニタリングを実施する。 ・発生源の監視調査 ・琵琶湖等の環境基準監視調査 ・琵琶湖の残留有機汚染物質調査、地下水監視調査	・県の環境行政を適切に推進するために、関係法令等に基づくモニタリングを実施する。	地方機関環境担当課等関係機関の協力、連携により調査を実施する。 4～3月 ・定期調査の実施 ・県および県内各所担当部署との協議、調整 ・調査実施状況および調査結果について、四半期毎に集計し、関係機関に報告

組織目標	前年度の実績値、またはこれまでの推移等 (C)	平成21年度 目標値 (P)	目標値の考え方 改善点など (A)	目標達成に向けての 実施方策・スケジュール (D)
<p>2 解析モニタリングの推進</p> <p>(1)琵琶湖の低酸素化の実態把握および北湖生態系に与える影響の把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖北湖の低酸素化について、過去のデータ整理と現状調査 水深別水質調査、流動場の把握 (DO、水温等) 内外文献整理・レビュー 数値解析モデル整備 貧酸素耐性試験(スジエビ) 微生物群集解析手法整備 	<ul style="list-style-type: none"> 低酸素化のメカニズムと影響に関する数値解析・評価を行う。 水深別水質調査、流動場の把握 (DO、水温等) 数値解析の 貧酸素耐性試験(ウズムシ) 微生物群集変化平面 	<ul style="list-style-type: none"> 低酸素化の実態把握 将来予測のため、有機物分解による酸素消費と、湖水の停滞による酸素供給の低下について、現地調査と数値解析を行う。特に、既に取得した深層の溶存酸素や流動等の季節変化について図解を行い、鍵となる現象を示 	<p>水質、物理、生物の専門家からなるチームを編成し、知見を総合化する。</p> <p>4～3月：水深別水質調査の実施</p> <p>4～3月：物理生物観測・実験の実施</p> <p>9月：上半期の成果確認</p> <p>9月：陸水学会学会発表</p> <p>3月：水環境学会での発表、情報収集、平成21年度の成果の取りまとめ</p>
<p>(2)水環境モニタリングの最適化</p>	<ul style="list-style-type: none"> モデルを活用した琵琶湖水質調査の最適化の検討(方法論の検討、湖内水質シミュレーション等) 現行琵琶湖水質調査の課題整理 	<ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖の水質管理上より効果的、効率的な調査地点等の検討 湖内水質実証調査による検証 	<ul style="list-style-type: none"> 観測点最適配置プログラムをさらに改良し、効果的、効率的な調査地点の提案を行う。また、その地点について、実証調査により検証を行う(下半期のみ)。 	<p>専門家の参画による、最適化に関する検討の理論的支援を得る。</p> <p>10～3月：琵琶湖水質調査</p> <p>4～12月：モデルによる検討</p> <p>1～3月：検討結果とりまとめ</p>
<p>(3)琵琶湖のプランクトン等の長期変遷</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なモニタリング調査と化学分析結果による水質評価 植物プランクトンのモニタリング方法を確立(植物プランクトンマニュアルの作成) 	<ul style="list-style-type: none"> 動物プランクトンの動向等について解析・評価 モニタリング手法を確立(動物プランクトンマニュアルの作成) 	<ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖におけるプランクトンのモニタリング手法の確立に向けて、動物プランクトンに焦点をあてて取り組む。 	<p>専門家研究会の設置による検討を行う。</p> <p>4～3月：琵琶湖環境基準点調査 琵琶湖水深別水質調査 瀬田川調査</p> <p>1月：専門家による研究会の開催</p>
<p>(4)大気環境の現状評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> モニタリングの具体的手法について検討、資料、データの収集 大気のシミュレーションと現状把握、解析 	<ul style="list-style-type: none"> 大気環境の現状評価の完成 大気の自動測定、光化学スモッグ注意報の発令地域等の適正性の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 測定計画の具体化に向けて、解析評価結果をまとめる。 	<p>環境審議会部会において外部有識者等とともに検討する。</p> <p>4～6月：解析評価結果のまとめ</p> <p>7月：環境審議会部会での検討</p>

組織目標	前年度の実績値、または これまでの推移等 (C)	平成21年度 目標値 (P)	目標値の考え方 改善点など (A)	目標達成に向けての 実施方策・スケジュール (D)
<p>3 総合解析(政策課題研究)の推進</p> <p>(1)琵琶湖流域管理システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖流域統合管理モデルの改良 県政世論調査におけるアンケート調査の実施等による琵琶湖の価値体系の整理 	<ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖流域統合管理モデルの改良を継続する。 モデルによる琵琶湖の水質と魚介類の関連性の解析 琵琶湖の価値に関する評価方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖の将来像の具体化に向け、琵琶湖の環境を再現、予測できるモデルの改良を継続し、その多様な価値の関連性の解析とその評価に関する検討を行う。 	<p>これまでに構築したモデルをさらに改良する。</p> <p>4～3月： モデルの改良、価値評価手法の検討</p> <p>10～3月： 水質と魚介類の関連性解析</p>
<p>(2)面源負荷とその削減対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 面源負荷量およびその対策に関する文献情報の収集、整理 農業濁水の琵琶湖水質への影響把握 特定流域における水循環の実態把握、水管理手法の評価 	<ul style="list-style-type: none"> 面源負荷量およびその対策に関する文献情報の収集、整理(継続)まとめ データが不足している面源負荷量把握 不明確な面源負荷対策の効果把握 野洲川・日野川流域における水収支の把握とGISデータベースの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 面源負荷対策の効果予測、方向性の提案に向けて不足情報を収集、整理する。 	<p>文献等や現地調査によるデータ収集を行う。また、収集した情報等については、データベース化し、モデルによるシミュレーションを行う。</p> <p>4～3月： 文献収集、データ解析、負荷量調査(森林、農地、市街地)、水収支調査、GISデータベース化</p>

組織目標	前年度の実績値、または これまでの推移等 (C)	平成21年度 目標値 (P)	目標値の考え方 改善点など (A)	目標達成に向けての 実施方策・スケジュール (D)
(3)水質汚濁メカニズムの解明	<ul style="list-style-type: none"> ・難分解性有機物の分析方法の確立、発生源状況の把握 ・主要な発生源からの有機物の挙動についての詳細調査 ・琵琶湖流域統合管理モデルの改良 	<ul style="list-style-type: none"> ・難分解性有機物を考慮した琵琶湖における有機物収支の概要の提示 ・CODの増加要因等の検討資料の提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・難分解性有機物を考慮して有機物収支をとることができる指標で負荷量を把握する。 ・生分解性を考慮する。 ・有機物による汚濁を適切に評価する手法を検討していく。 ・新たな面源負荷原単位の提案や負荷量推定式の提案につながるデータや知見の整理。 	<p>琵琶湖流域統合管理モデルの改良版によるシミュレーションを実施する。</p> <p>北湖の水深別や南湖水、生活雑排水等の難分解性有機物を調査する。</p> <p>、より有機物収支を把握する。</p> <p>4月：調査課題の集約 5月：学術委員会部会中間検討 6～3月：現地調査 7～10月：シミュレーション実施 11～1月：学術委員会部会での取りまとめの方向性検討 2～3月：取りまとめ</p>
(4)内部負荷による湖内水質変動の解析および生態系保全に向けた水質管理	<ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖水質長期変遷データセットの整備とその解析と琵琶湖内の浮遊生物量の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖の履歴である「琵琶湖ストーリー」の作成と湖内生物量の全体像の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・マザーレイク21第2期計画の基礎資料となる琵琶湖の水質長期変遷をまとめる。 ・生態系保全に向けた水質管理について検討するために、湖内生物量および湖内生態系の炭素や窒素、リンのフローについて解析する。 	<p>琵琶湖環境の長期変遷データセットの解析と湖内生物群集構造の概念モデルをもとに、水質変動プロセスを整理する。</p> <p>4～3月：一次生産測定 9月：学会発表 10月：琵琶湖の水質変動に関する研究会の開催 11月：学術委員会への資料提供 2月：琵琶湖の水質変動に関する研究会の開催</p>

組織目標	前年度の実績値、または これまでの推移等 (C)	平成21年度 目標値 (P)	目標値の考え方 改善点など (A)	目標達成に向けての 実施方策・スケジュール (D)
(5)湖岸生態系の保全 ・修復および管理	<ul style="list-style-type: none"> ・湖岸環境調査(土地条件、水鳥)データのGIS化 ・湖岸植生の変遷調査 ・湖岸域の貴重植物分布調査(春期) ・研究会(湖岸生態系保全修復、水草管理、沿岸域管理)を開催し、取りまとめの方向性を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・湖岸調査(水草、水鳥、貴重植物)データのGIS化 ・湖岸植生図の作成と現地確認調査 ・南湖に分布する水草についての、遺伝的特性からみた管理上の留意事項に関する基礎情報の収集 ・研究会における沿岸域管理の在り方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖湖岸域に関する環境変遷の解析と可視化 ・湖岸生態系の保全に向けてヨシ群落の保全再生、沿岸域管理の在り方の検討に取り組む。 	<p>GIS化作業の継続実施、研究会による情報の共有と取りまとめ</p> <p>4～3月:GISデータ化</p> <p>4～3月:湖岸環境変遷調査(湖岸植生)</p> <p>9月:研究会(沿岸域管理)</p> <p>5～10月:底生動物等調査</p> <p>10～3月:GIS解析</p> <p>11～2月:水草遺伝分析</p> <p>2月:研究会(沿岸域管理)</p>
(6)持続可能社会システム	<ul style="list-style-type: none"> ・スナップショットツールの改良・整備(県下8地域の設定) ・持続可能な社会の実現にかかる制度的、経済的な政策手段の情報収集と整理、体系化 ・県民意識調査による社会的満足度調査の実施 ・2つの持続可能社会の定量的シナリオの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・8つの地域別に持続可能な社会のために必要な対策などをまとめる。 ・将来像の理解にかかる表現法の開発と実現のための課題整理 ・県内における取り組み事例の分析と普及方策の検討、課題の整理 ・経済的な政策手段を中心に、その手段の特質や期待される効果、実行に移すための課題等を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県全体のビジョンを地域レベルで具体化するための取り組みとして、将来像の作成や課題の整理を行う。 ・県として関わりのある経済的政策手段やその課題を把握する。 	<p>スナップショットツールの改良・整備</p> <p>4～8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策手段に関する情報収集と整理 ・地域別将来像のイメージ作成、表現法開発 <p>9～1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策手段の効果検討、課題整理 <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県における制度的、経済的支援手段と課題整理 ・県内取り組み事例の収集、普及課題の整理 <p>4、6、8、10、12、2月 研究会の開催</p>

組 織 目 標	前年度の実績値、または これまでの推移等 (C)	平成21年度 目標値 (P)	目標値の考え方 改善点など (A)	目標達成に向けての 実施方策・スケジュール (D)
4 情報の収集・発信、研究交流の推進、研究成果の社会的還元	(H20実績) 琵琶湖文献の収集件数 年302件 ホームページへのアクセス件数 年102,547件 びわ湖セミナー 1回 研究報告書 年1回発行 センターニュース 年2回発行 試験研究機関連絡会議発表会 1回 依頼対応 (琵琶湖環境講習会)67回	・琵琶湖文献の収集件数 年250件 ・ホームページへのアクセス件数 年125,000件 ・びわ湖セミナー 1回 ・研究報告書 年1回発行 ・センターニュース 年2回発行 ・試験研究機関連絡会議発表会 1回 ・依頼対応 (琵琶湖講習) 36回	研究資源としての環境情報の集積を図るとともに、研究成果の分かりやすい広報 ・発信に努め、地域貢献としての還元と、研究活動への理解を図る。	情報源情報の収集に努める。 5月：新ホームページの運用開始 7～9月開催予定 12月発行予定 10月、3月発行予定 4～9月：幹事会における準備 10月：開催 依頼に応じ月3回程度対応